

# 日産厚生会玉川病院を受診された患者さまへ

当院では下記の臨床研究を実施しています。本研究の対象者に該当する可能性のある方で診療情報等を研究目的に利用または提供されることを希望されない場合は、下記の問い合わせ先にご連絡下さい。

研究課題名（研究番号） ポケット理論で考える胸腔子宮内膜症性気胸の発生機序  
(No. )

当院の実施責任者 大橋康太（気胸研究センター）  
(所属)

他の研究機関および  
各施設の研究責任者（所属） なし

本研究の目的

胸腔子宮内膜症性気胸（TEP）は30-40歳代の女性に発症する難治性の病気です。何らかの理由で本来お腹にある子宮内膜組織が肺の表面や横隔膜などに存在しています。その子宮内膜組織が生理周期に合わせて弱くなり、肺や横隔膜に穴があいてしまうために発症すると考えられており、治療しない場合は、胸の中に空気が溜まる状態が何度も繰り返されます。

TEPのほとんどは右側の胸で発症します。この原因の有力な仮説は、子宮内膜組織が子宮から逆流してお腹の中に入り、お腹にある水の流れ（向かって時計回り）によって右横隔膜にたどり着くというものです。私達の施設では肝臓と右横隔膜の間に生まれつき存在している膜でポケットが作られることで子宮内膜組織がその部分に溜まりやすいのではないかと予想し、ポケット理論と呼んでいます。この研究の目的は、過去にTEPが原因で手術を受けた方の手術動画や写真を見直し、子宮内膜組織が横隔膜のどの場所にあるのかを調べ、ポケット理論で予想される部分に本当に子宮内膜組織が存在するのかどうか確認することです。

今回、2015年1月から2020年12月までにTEPに対し当院で初めて手術を受けた方を対象として調査いたします。

本研究を学会、論文発表することで、TEPの原因解明につながり、将来的には治療成績向上に役立つことが期待できます。

調査期間

倫理委員会承認後から2024年3月31日まで

研究の方法  
(使用する試料等)

●対象となる患者さま

当院で2015年1月から2020年12月までにTEPに対しはじめて手術を受けた方

●利用する情報

カルテに記載のある診療記録、手術動画や画像データを利用します  
共同研究施設以外への試料・情報の提供はありません

試料/情報の他の研究機関への  
提供および提供方法  
個人情報の取り扱い

利用する情報から氏名や住所等の患者様を直接特定できる個人情報は削除し解析を行います。また、研究成果は学会や論文等で発表を予定していますが、その際も患者様を特定できる個人情報は利用しませ

ん。本研究のために収集したデータは共同研究以外では使用せず、研究終了後5年間保管し、その後はすみやかに消去します。

本研究の資金源  
(利益相反)

本研究に関連し開示すべき利益相反関係にある企業等はありません

お問い合わせ先

電話：03-3700-1151 (代表)

担当者：大橋康太

備考